



どこ 集石土壌

屋外の調理場で、蒸焼きや石焼きなどを行った跡と言われています。



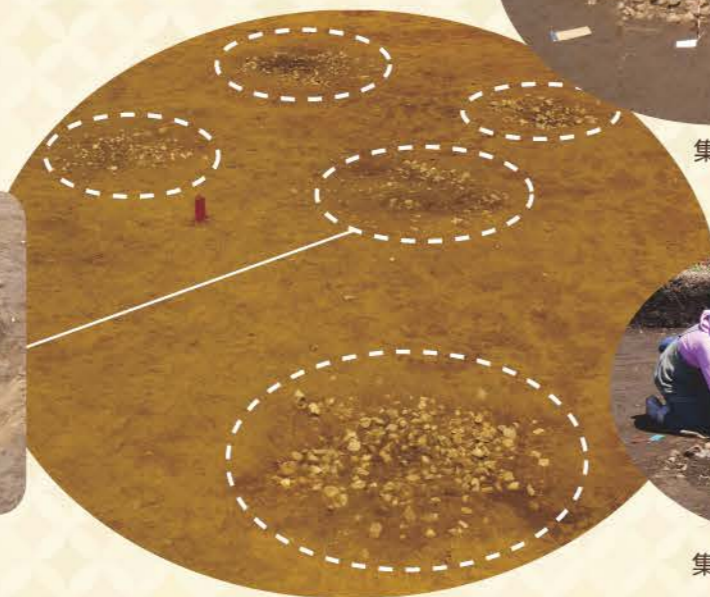
集石土壌の実測は大変です!



集石土壌の発掘風景



第53号集石土壌



4 まとまって見つかった集石土壌 (第51~第55号集石土壌)

飯能市 かんじょうしゅうらく 縄文時代中期の環状集落を歩こう!



あしかりば 芦荻場遺跡・向原 A 遺跡

芦荻場遺跡・向原 A 遺跡は、飯能市の北東、圏央道狭山日高インターの北西約800mに位置し、武蔵野台地の北側、南小畔川の右岸に立地しています。今回の調査では、約5,000年前の縄文時代中期の竪穴住居跡や集石土壌などが見つかりました。



南小畔川

II区

III区



南から見た芦荻場遺跡

中世の遺構

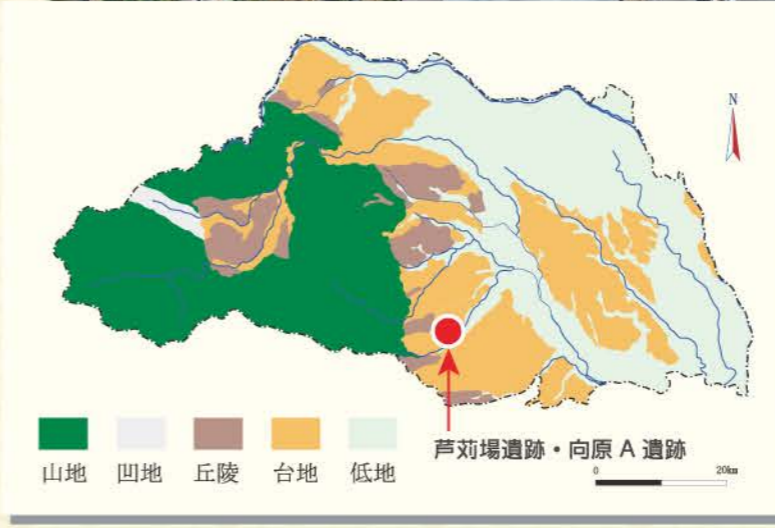
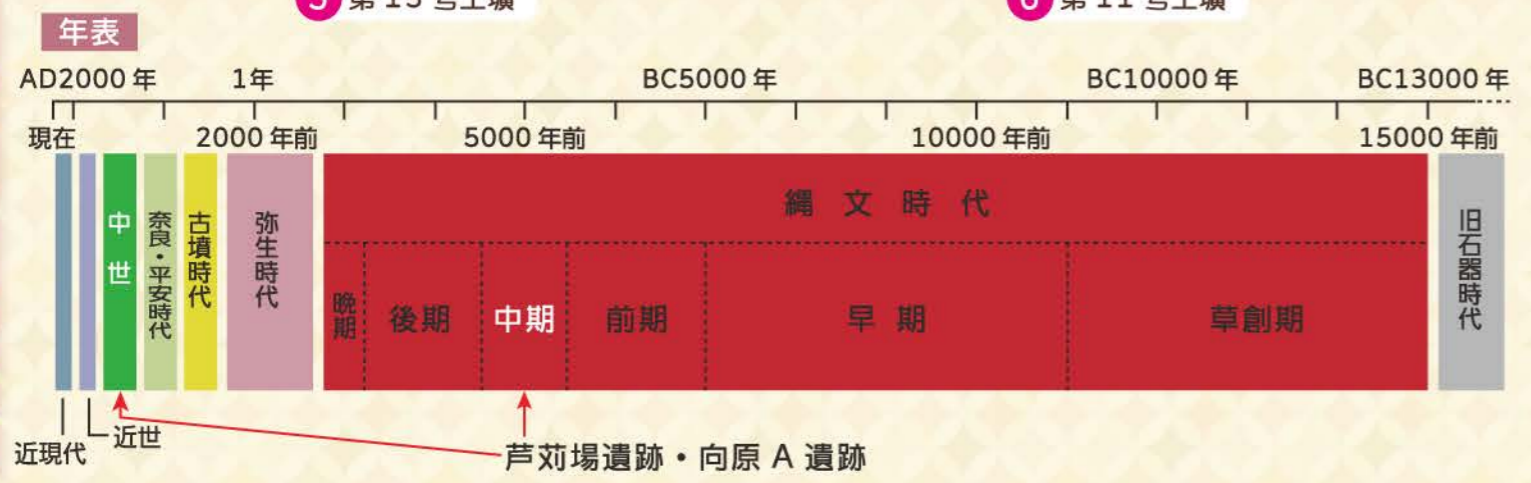
調査区からは中世の遺構も見つかっています。地下式坑は深さが2mを超え、14世紀後半から16世紀の遺物が見つかっています。



5 第13号土壌



6 第11号土壌



主催
埼玉県教育委員会
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催
株式会社 秀拓
飯能市教育委員会



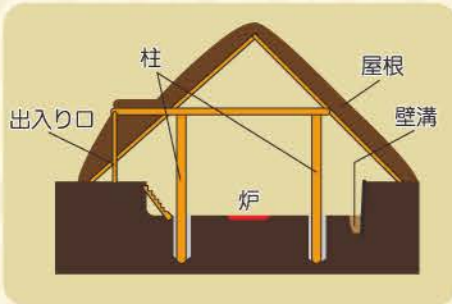
縄文時代中期(約5,000年前)のムラ

かんじょうしゅうらく
環状集落とは?

中央に広場を設け、その周りに竪穴住居が環状・同心円状に並び、縄文時代中期の典型的な集落の形です。

竪穴住居

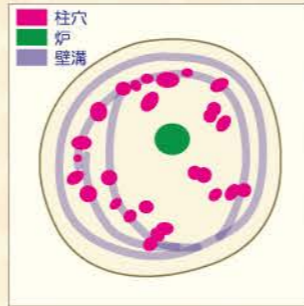
地面を掘りくぼめた「竪穴(たてあな)」に柱を立てて、その上に屋根をのせたむかしの家です。壁を支えるための矢板をすえる壁溝があるものや、ないものなどがあります。



縄文時代中期(約5,000年前)の竪穴住居跡(イメージ図)



1 へきこう
壁溝のある住居(第22号住居跡)



複数回建て替えられ、壁溝が3重に巡り、柱の穴も重なっています。



3 へきこう
壁溝のない住居(第3号住居跡)

芦荻場遺跡第3次Ⅲ区

芦荻場遺跡第1次
(調査: 埼玉県遺跡調査会)

- 竪穴住居跡
- 集石土壌
- 中世の遺構

芦荻場遺跡第3次Ⅱ区



2 遺物出土状況(第12号住居跡)

竪穴住居跡の中から遺物がまとまって出土しています。



芦荻場遺跡第2次Ⅰ区



ほぼ完全に復元できる中期の
深鉢形土器です。

向原A遺跡第4次



5 竪穴住居跡の発掘風景



いしがこいろ
石囲炉(第12号住居跡)



いしがこいろめがめろ
石囲埋糞炉
(第9号住居跡)



(第3号住居跡)



うめがめろ
埋糞炉
(第10号住居跡)



じしゅうろ
地床炉(第55号住居跡)

様々な炉の跡

住居の中からは様々な炉が出ています。暖を取ったり、調理をするための施設です。

